

まちだ国際交流パーティー



「まちだ国際交流パーティー」も今年で20回目という記念すべき節目を迎えることとなりました。

当日の来場者は、国籍も多様な、フィリピン・中国・アメリカ・コロンビア・台湾・タイ・メキシコ・カナダ・マレーシアの9カ国の外国籍の方たちに加え、日頃大変お世話になっている町内会、商店会の皆様にもご参加頂き、総勢181名となりました。

各テーブルで、それぞれの自己紹介から始まり、美味しい料理を口にしながらの歓談の時間をもち、あちらこちらでお喋りの花を咲かせている姿が多く見受けられました。

今回のアトラクションの一つ目は古典的な琉球舞踊です。

伝統的で艶やかな衣裳を身にまとい、^{ジウター}地唄と呼ばれる唄と演奏の三位一体の踊りに、来場者たちの多くがカメラを向けていました。

二つ目のアトラクションは、華麗なアルゼンチンタンゴとボレロのダンスです。優雅な踊りに思わず誰もが見入ってしまいました。

その後、ダンスタイム。軽快な音楽のリズムに乗せて来場者たちも一斉に踊りに参加し、会場全体が熱く盛り上がりました。

最後は、20回記念の特別企画『お楽しみ抽選会』へと続き、会場の熱気は最高潮に達し、あっという間に2時間半の交流パーティーの幕が降りました。出口で参加者一人一人を見送る際、数多くの満足気な笑顔に出会い、言葉は交わさなくても温かな心の交流を肌で感じる事ができました。これからも多くの方たちが笑顔で交流できる『国際交流パーティー』でありたいと願っています。

パーティーを開催するに当たり、ご尽力頂いた多くの方たちに感謝申し上げます。

国際交流部会 野村 芳子



国際交流部会 ボランティアの皆さん



沢山の
おいしい料理！



沖縄民謡を
一緒に
踊りました

ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで（詳細▶7面）



KOKUSAI インタビュー

湯 勇 さん

Q お国はどちらですか？

中国から来ました。2014年に家族と町田に来ました。家族は妻と息子の3人です。

息子は4月から中学生になります。つくし野に家を買いました。

Q 日本の生活はどうですか？

日本は安心・安全です。食べ物や水が安心して食べたり飲んだりできます。農薬などが安心です。水はとてもきれいで、水道水を飲むことができます。でも、スーパーで売っている肉はあまり新鮮でないような気がします。精肉してから冷凍している時間がとても長いからです。中国では冷凍時間は短いです。日本は野菜や果物など食品の値段がとても高いです。電気・水道・ガスなどの公共料金も高いです。でも着るものは安い店があります。電気製品や化粧品も安いです。とてもいいです。

Q 日本で旅行はしましたか？

大阪・北海道・京都・伊豆などいろいろなところへ行きました。家族で旅行します。

Q どこがよかったですか？

私は大阪城が好きです。とてもきれいです。あと十三^{じゅうそう}は食べ物がおいしかったです。カニや焼き肉をたべました。

Q 北海道はどうでしたか？

空気がとてもきれいで気持ち良かったです。メロンやビール・羊肉がおいしかったです。カニや馬肉の寿司もたべました。

Q 日本の食べ物はどうですか？

納豆や味噌汁、妻と息子は好きですが、私はあまり好きではありません。日本のビールはおいしいです。

Q ふるさとはどこですか？観光地やおいしいものを教えてください。

私の故郷は成都です。パンダ基地や三国時代の「武侯祠」^{ふこうし}に行ってほしいですね。ここには三国時代の蜀の丞相・諸葛亮の塚があります。おいしいものはあまり辛い四川料理です。くだものの電眼^{りゅうがん}がとてもおいしいです。

ありがとうございました。



町田国際交流センター 賛助団体紹介

「町田にほんごスクールネット」

今回は子ども達の支援をしている「町田にほんごスクールネット」をご紹介します。代表の丸山昌吾氏にうかがいました。

Q 「町田にほんごスクールネット」はどんな活動をしているんですか？

日本の小中学校へ転入してきた日本語の不自由な子ども達に日本語の指導をしています。1999年から活動しています。市の教育センターからの依頼により子どもが通っている学校へボランティアが出勤し、通常のクラスの時間内に別の教室で日本語の勉強をします。子ども達は年齢や性格など一人一人みんな違います。子どもの様子をよく観察し、その子にあった対応をしなければなりません。子どもは言葉のわからない中で先生の授業を聞かなければなりません。そのための日本語の指導をしていきます。原則週2回4時間でトータル90時間が目安です。休みや学校行事などがありますので、だいたい1年間です。同じ子どもと1年間向き合っていくことがボランティアに求められます。子どもが好きで学校教育の経験者が望ましいのですが、必ずしもそんな方ばかりではありません。現在登録しているボランティアは約60名ですが、色々な事情もあり実際に活動しているのは30名程度です。

Q 支援を必要としている子どもはどのくらいいるのですか？

2017年度は51名に支援をしました。年度初めに依頼があった場合はほぼ対応できるのですが、途中で転編入してきた場合はボランティアの都合がつかずに待ってもらう場合もあります。

心苦しいですが。このボランティアは有償です。1時間1,000円で交通費はありません。交通費やプリントなどの教材の準備などをすれば持ち出しになることもあります。

Q スクールネットの他の活動はいかがですか？

学校での取り出しは、市からの要望で日本語指導に限定されています。そんな中、会員から「中学を卒業しても支援していた子ども達は高校になかなか進学できません。何か手助けが必要なのでは」という声がでました。そこで2007年に「中学生教室」を立ち上げました。日本語の指導とともに教科学習の補助もすることにしました。主に教科を通した日本語指導をしています。また、高校受験を目指した学習の手助けもしています。面接の練習などもしています。毎年全員がどこかの高等学校に合格して新たな高校生となっています。

Q 今困っていることがありますか？

中学生教室で指導しているボランティアはほとんどが日本語の指導員であり、教科の学習内容の解説がほとんどできません。特に「理科」などの指導ができるボランティアが不足しています。中学生教室はすべて無料であり、ボランティアも無償ですが気持ちのある方のご協力をお願いします。

ありがとうございました。子ども達は将来をになう大切な宝です。十分な支援を望みたいです。



学習支援の様子



ボランティアと子どもたち

アウトリーチ音楽活性化支援活動による「ヴァイオリン演奏会」

2018年2月16日(金) 10時10分～10時50分、市民フォーラム3階ホールにおいてアウトリーチ音楽活性化支援活動による「ヴァイオリン演奏会」が開催されました。

北島佳奈さんのヴァイオリンと加地美秀子さんのピアノ演奏に、北島さんのトークを交えて楽しいひと時を過ごすことが出来ました。4歳からヴァイオリンを始めたという北島さんの使っていた子ども用のヴァイオリンも紹介しながら、幼少期からの人生を表

現する様々な曲を演奏していただきました。演奏者のすぐそばで鑑賞する外国人や部会員が一体となった「アウトリーチ」という形態をぞんぶんに楽しむ事が出来ました。

エルガー、サラサーテ、リムスキー・コルサコフ、などの親しみのある曲を楽しみ、ユーモレスクで終わりました。

広報部会 大内 孝夫



外国人参加者の声

- ・私はクラシックを生で聴くのは初めてでしたが、とても楽しかったです。お話が英語を交えていたのでわかりやすかったです。
- ・結婚式の時にヴァイオリンとチェロとで生で演奏してもらいました。それ以来、生で聴くのは初めてです。とても楽しかったです。
- ・子どものとき、ヴァイオリンを1年間習っていたので懐かしかったです。音楽があらわすこと（虫の音や自分の気持ち）を体験出来てよかったです。例えば、ヴァイオリンのきびしい先生や小さいときの気持ち、大きくなった時の気持ち、恋愛のうれしい曲やふられた時の気持ちなど、とてもおもしろかったです。演奏だけでなく、話が面白くてリラックスして楽しめました。

子ども教室

今学期、「年少者日本語教育」という授業を履修し、町田子ども教室でボランティアをする機会をいただきました。

今回、「節分」に関するイベントを行うにあたって、私たちが一番意識したのは、“子ども達が楽しむ”ということでした。特に、課外活動では、普段の勉強にはない楽しさを味わえるということに意義を感じていました。他にも、日本文化を知る、他国の文化も知る、子ども達同士の友情を深めるなどの期待を含め、企画を行いました。最後に豆をすごく楽しそうに投げる子

ども達の姿がとても印象的でした。

授業で学んだ内容を踏まえながら実際に子ども達の支援をするのはとても難しく、初めは私の支援が役に立っているのか、悩んだ時もありました。しかし今では「先生！」と気軽に質問される存在になれたことを嬉しく思います。

今回の活動を通して、外国につながる子ども達が、自分の身近にたくさんいることを知り、一人一人に寄り添って支援することが大切だと学ぶことができました。

子ども教室ボランティア 桜美林大学3年 嘉藤 綾奈



クイズとジャンケンです。



豆まきと鬼退治です。

タイ語教室

2018年2月10日（土）町田市民フォーラム3F 調理室で、2年ぶりにタイ語教室でタイ料理をみんなで作りました。

タイ、特にバンコクのような都市部では安くおいしい屋台がいっぱいあるので、外食が一般的で、家庭で料理をつくることはあまりありません。

タイ語教室の今までの先生はみな女性でしたが、結婚して日本で暮らすようになってから、家庭で料理を作るようになったようです。

今回、紹介するのは「ソムタム」。タイの伝統的なサラダ料理で、まだ熟していない青いパパイヤを使ったサラダです。タイ語で「ソム」は「酸っぱい」、タムは

「叩く」という意味です。

細く切った青いパパイヤ・いんげん・トマト・とうがらし・にんにく・マナオ（ライム）の果汁・ナンプラー・砂糖などをクロックという石のすり鉢に入れ、棒で叩くようにして混ぜながら味をなじませて作ります。美味しいうえに、美容やダイエットに効果がある、人気のタイ料理です。辛さは作りながら調整していきます。最近では、タイ料理に必要な食材や調味料もスーパーやネットで簡単に手に入れることができるようになりました。

みなさんも、タイの家庭の味「ソムタム」作りに挑戦してみてください。



先生に本場の調理を教してもらいました。



よく磨り潰します。



盛り付けて出来上がりです。



おいしい料理の後は皆笑顔です。

日本語教室ブラッシュアップ講座

2017年2月4日（日）、一橋大学国際教育センター教授の庵功雄（いおりいさお）先生をお迎えし、町田国際交流センター講習室にて、第1回のブラッシュアップ講座『多文化共生社会を作る <やさしい日本語>』を開催しました。

「多文化共生社会」とは、外国人を対等な市民として受け入れることです。〈やさしい〉には「易しい」と「優しい」の2つの意味が含まれています。

高齢化と人口減少が急速に進む日本が、一定の経済規模を維持するためには、外国人の受け入れが不可避の状況です。その際、安定的な受け入れを行うためには、言語（日本語）の問題は避けて通れません。

今回の講座では、やさしい日本語の全体像を紹介するとともに、多文化共生社会の実現に、やさしい日本語が果たしうる役割について、お話をいただきました。

きました。

多文化共生社会にとって「ボランティア」が担うべき役割は決して日本語教育だけではありません。何より大切なことは、そこに信頼関係（ラポール）を外国人との間で形成することです。

そのために、地域の日本語教室に求められる機能は、その教室が外国人にとって「居場所」になることであり、相手に何かを「教える」ことよりも、相手との間で「学び合う」姿勢が最も重要なことなのです。との貴重な示唆を私たちは真摯に受け止めました。

さらに関心のある方は、庵先生の著書『やさしい日本語——多文化共生社会へ』（岩波新書2016年8月発行）を読まれてください。

日本語教室部会 藤室 昌之



貴重なお話を伺うことが出来ました。



多くのボランティアが参加しました。

編集後記

例年になく寒くて厳しい冬。そしてこれまた例年になくポカポカ陽気の春先。こんな天候時の定説通り、桜の花が例年より10日も早く咲き始めて、その艶姿を見せてくれました。

例年になくことをもうひとつ。ここ町田国際交流センターにとって、今年は発足20周年を迎える節目の年です。2月に開かれた「町田国際交流パーティー」も20回目、その華やかな様子が本号でも紹介されています。7月29日にはセンター主催の記念セレモニーが開催され、その歴史を振り返ります。

発足以来の先人たちの偉業に思いを致し、時代が求める新しい国際交流発展の一助に。そんな「Volontiers」でありたいと思っています。読者のみなさまの一層のご支援を願いつつ。

生涯学習センター まちだ市民大学HATS「人間関係学」公開講座

「不寛容な国ニッポン」

数多くの著作を発表し、多くのメディアでも活躍されている雨宮処凛さんをお迎えし、非正規雇用の増加など社会構造の変化により、普通に働いていても生活が苦しかったり、思うような仕事に就けない若者が多く暮らす今のニッポンで、若者が希望を失わずに生きていくにはどうしたらいいか？講師の雨宮さんに語っていただきます。みなさんも一緒に考えてみませんか。

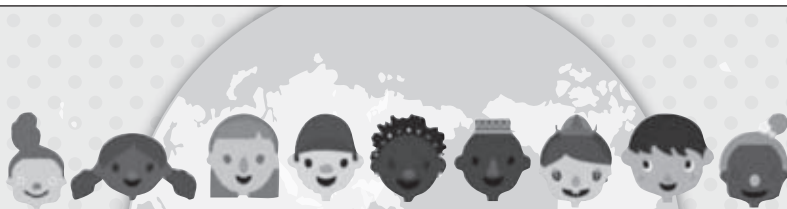
講 師 雨宮 処凛 (あまみや かりん) 氏 (作家)
日 時 6月6日 (水) 19:00 ~ 21:00 (18:30開場)
会 場 生涯学習センター 7階 ホール (町田市原町田6-8-1)
対 象 どなたでも
定 員 108名 (申込順)
費 用 無料
申 込 電話で町田市イベントダイヤル (042-724-5656) へ。
または町田市ホームページのイベント申込システム
「イベシス」での申込。



問い合わせ

町田市生涯学習センター

〒194-0013 町田市原町田 6-8-1 TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073
休館日 毎月第4月曜日 (祝日の場合は翌日) および年末年始 (12月29日~1月3日)



ホームページをご覧ください!!

アドレス <http://www.machida-kokusai.jp>

新しい情報がいっぱい!!

町田国際交流センターのホームページでは、センターが主催する講演会や外国人向けの相談会のお知らせのほか最新の情報を提供しています。

また外国語版のページでは、「日本語教室」など、外国人の方々が地域で暮らすのに必要な情報を英語で提供しています。

今後も楽しいコンテンツづくりを目指していきます。是非、ご活用ください。

(一財) 町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

<http://www.machida-kokusai.jp>
E-mail: info@machida-kokusai.jp

事務局からのご案内・募集



町田国際交流センター・生涯学習センター共催講演会 「外国の踊りとお話と」



第1部

「情熱のフラメンコ」バイレ（踊り）：
森野みどり氏 カンテ（歌）、ギターの生演奏による迫力あるステージとフィリピンの民族舞踊をお楽しみ下さい。



第2部

パネルディスカッション「みんなが住みやすいまちへ」

日本在住の外国にルーツを持つ方が生活の中で思うこと、感じることを語り、「みんなが住みやすいまちへ」をテーマに会場の皆さまと考えます。

- 日 時：2018年5月27日（日）13：30～16：30（開場13:00）
- 会 場：町田市生涯学習センター 7Fホール 町田市原町田6-8-1（レミィ町田内）
- 定 員：154人（申込み順）
- 申 込：電話で、町田市生涯学習センター（042-728-0071）へ
- 問い合わせ先：町田市生涯学習センター 電話 042-728-0071

あまり知らない、もっと知りたい国ネパール



～至宝ヒマラヤに抱かれた神々の住む国・ネパールの今～

第8回 JICA青年海外協力隊・帰国隊員による最新情報報告会

亜熱帯のジャングルから世界の屋根ヒマラヤまで変化に富んだ国土に30以上の民族が暮らすネパール。ブッダ（釈迦）の生誕地 ルンビニはネパールにあります。

2015年4月25日に発生した大地震（マグニチュード7.8）で甚大な被害を受けたネパール。そこで今回は講師より現地活動を通して見たネパール国の今を映像と共に詳しくお話頂きます。

- 開催日時：2018年6月30日（土）14：00～16：00（開場13：30）
- 会 場：町田市民フオーラム4階 第2学習室A B
- 参加費：無料
- 申込期限：2018年6月23日（土）
- 講 師：大野 綾 氏



埼玉県さいたま市在住。首都カトマンズ近郊の郡土壌保全事務所に配属され2年間活動。ボランティア参加以前はテレビのディレクターとして災害放送を中心に情報番組制作に携わる。2015年の大地震発生時には現地の避難所運営を行った。

- 主 催：一般財団法人 町田市文化・国際交流財団 町田国際交流センター（担当：国際理解部会）
- 申込方法：お申し込み：住所、氏名、参加人員と電話番号をご記入の上、下記の要領でお申し込み下さい。
 - ★はがき（宛先）：194-0013 町田市原町田4-9-8 町田市民フオーラム4階 町田国際交流センター宛
 - ★FAX：042-722-5330へお送り下さい。
 - ★ホームページから：町田国際交流センターホームページからお申し込み下さい。
www.machida-kokusai.jp

受付確認のお知らせはお送り致しません。直接会場へお越し下さい。